

日本新聞製作技術懇話会
広報委員会編集

編集人 辻 裕史
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>

CONPT

CONFERENCE FOR NEWSPAPER
PRODUCTION TECHNIQUE JAPAN

VOL.37 No.2
2013.3.1
会報 (通巻 218 号)

日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
(禁転載)



page2013見学記

有限会社メディアテクノス 代表取締役 井上秋男(JAGAT客員研究員)

はじめに

日本印刷技術協会(JAGAT)主催の第26回page2013が2月6日から8日までの3日間、東京・池袋のサンシャイン・コンベンションセンターTOKYOにて「拡大！コミュニケーション支援ビジネス」をメインテーマに開かれ盛況となった。見学記として「開催コンセプト、開催概要、出展状況」を紹介したい。

■開催コンセプト

スマホ・タブレットなどのデジタルデバイスと電子新聞、電子書籍、電子チラシなどのデジタルメディアの普及加速化により、新聞業界同様に印刷・グラフィック業界も変革期が到来している。印刷マーケットカンファレンスでは「2013年メディアと印刷市場展望」が紹介され、印刷市場規模は2012年5兆7100億円(予想)、2013年5兆5400億円～5兆6500億円(予想)とピーク時の1990年の8兆9287億円か



ら長期低落傾向が続いている。このためpage2013では、印刷業を紙の上にインキをのせる「印刷物の製造業」から「顧客のコミュニケーションの円滑化を支援する印刷業」へ業態変革するための新ソリューションやビジネスモデルが、展示会、カンファレンス・セミナー・ワークショップを通じて一堂に紹介され注目を集めた。

目次

page2013見学記	有限会社メディアテクノス 代表取締役 井上 秋男	2
新局長に就任して	沖縄タイムス社 システム局長 伊野波盛彦	5
楽事万歳	長崎新聞社 取締役印刷担当兼長崎新聞印刷センター 代表取締役社長 村田 博行	6
	コダック(株) 情報コミュニケーション営業本部報道メディア営業部担当課長 矢崎 友則	7
会員社レポート	田中電気(株)、日本ボールドウィン(株)	8
	東京インキ(株)、方正(株)	9
新聞製作人新年合同名刺交換会開く		10
CONPT日誌他		10

- 表紙写真提供：「CONPT TOUR2012 入選作より」
- 朝日新聞社・竹内省吾氏「パリの街角」
- 表紙製版：(株)デイリースポーツプレスセンター
- 組版・印刷：(株)デイリースポーツプレスセンター

■開催概要

「展示会」は、文化会館B,C,Dの3ホールを使用して、出展社129社(前回124社)、出展小間数503小間(同488小間)、来場者64,760人(同65,610人)規模となり盛会となった。「カンファレンス」は、基調講演はじめグラフィック、クロスメディア、データ印刷、印刷マーケット、ビジネスの6カテゴリ23セッション。「セミナー」は、現場で起きているトラブル解決、動画、品質管理など制作担当者向けと経営ビジョン、人材育成、クロスメディア、IT動向など経営者、管理者向けの情報提供など12セッション。「ワークショップ」は顧客ビジネス支援をテーマに4セッションを実施した。昨年に続き、「デジタルワークフローソリューション」と「page見所ツアー」も催され多数参加した。また、新たに会場内に「e-マーケティングコーナー」も設けられ表彰式や説明が行われた。注目の基調講演は多メディア時代を反映して、「電子書籍2013-国内プレイヤー勢揃い」、「PPO! オンデマンドソリューションが拓く新しいビジネス」、「未来を破壊する 解決編」をテーマに、業界有識者による講演とディスカッションが行われいずれも満員となった。関連して「PPO (プロモーションプロセスアウトソーシング)」では、11社が参加した「PPO推進協議会」発足も発表された。

■展示会の出展状況

①クロスメディアによるコミュニケーション支援ビジネス

多メディア時代到来により、印刷会社ではクロスメディア展開による「顧客のコミュニケーション支援」が重要なビジネスとなってきた。▼モリサワは「文字 えらぶ くむ Smart」をテーマに、組み版編集ソフト、電子雑誌・書籍向け編集・制作ソフト、フォントの最新バージョンを紹介した。▼ビジュアル・プロセッシング・ジャパンは、印刷業界向けコンテンツビジネスのIT戦略として「制

作業改善、製造業顧客向け、流通業顧客向け、出版業顧客向け」ソリューションを実演した。▼クロスデザインは、新聞協会技術開発奨励賞を受賞した編集ソリューション「LEPUS」を出展し、紙とデジタルメディアの同時制作を紹介。▼スターティアラボは電子ブック制作ソフト、コトブキ企画は画像認識サービス、光文堂はコンテンツのクラウド上での管理サービスと着替えることなく試着を楽しめるバーチャルシステム、エイシスは印刷物にスマホをかざすと画像認識によりリンク先が表示されWeb上の動画・音声に簡単に接続できるサービスを実演した。



クロスメディアソリューション出展相次ぐ

②デジタル印刷の進化発展

各社から導入実績をもとに「極小ロット、オンデマンド、バリアブル、ワンタッチオペレーション」などの特長を活かしたデジタル印刷ソリューションが紹介された。▼富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ(FFGS)は、次世代インクジェットデジタル印刷機JetPress720の国内外の導入事例をビデオで紹介。輪転タイプインクジェットデジタル印刷機JetPress540W(仮称)は新聞含め各種印刷サンプルを展示。富士ゼロックス製のカラー・オンデマンド・パブリッシングシステム2機種を実演した。▼コニカミノルタビジネスソリューションズはプレゼンとデジタル印刷機bizhubPRESSシリーズ4機種を出展し、高速・高品質印刷を実演。▼キヤノン

MJは後加工までJDFワークフローによる印刷物の付加価値を高めるソリューションと高速・高品質デジタル印刷システム4機種、日本語化したワークフローサーバーPRISMA、ホリゾン製後加工機との連携によるオンデマンドブックプロダクションを紹介した。▼リコージャパンは印刷ビジネスの環境変化に適応する新しい事業領域の開拓や付加価値向上の提案とRicho Proシリーズ2機種を実演。▼大日本スクリーン製造とコダックは印刷サンプルを展示。エプソン、理想科学工業、メディアコンフォート、カシオ計算機、ミマキエンジニアリングは最新のデジタル印刷機やカラープリンタを出展した。▼世界最大のデジタル印刷推進団体の米国NPO法人「PODi(the Digital Printing Initiative)」が出展。日本向けサービスとして、「ホームページの日本語化、日本語版webセミナー」などの実施と、4月から営業開始して各業界から広く会員を募集していくことを発表した。

③CTP、ワークフローの環境対応とインキ削減

印刷物の「多品種・小ロット・短納期化とコスト削減、環境対応」向けのCTP・ワークフローの出展と提案が相次いだ。▼FFGSは「i-Vision Wing」を構成する最新機器を一堂に出展。CTP関連では環境対応型サーマルプロセッサ、デジタルサーマルプレート、現像廃液削減装置、再生水再利用装置、完全無処理サーマルプレートなどを紹介。ワークフローでは新製品の次世代ハイブリッドワークフローシステム「XMF5.1」をベースに各種ソリューションを実演。▼日本アグファ・ゲバルトは「速乾印刷で始める経営革新」をテーマに、Agfa現像レスCTPプレート：AzuraTS、プリプレスワークフローの最新バージョン：Apogee8を出展し、自動化・効率化を紹介。▼大日本スクリーン製造は「shift to EQUIOS」をテーマにユニバーサルワークフローEQUIOS Ver.2.0を出展。自動処理機能

によるコストダウンと工程最適化による人材活用を提案。▼富士通は新聞業界での実績・ノウハウをもとにインキ削減ソリューションInkFit、高精細とコスト削減を実現するEcoScreening（参考出品）とモニターグループを出展した。

④後加工のインライン化、コンパクト化

デジタル印刷の普及拡大と多品種小ロットに対応した後加工機の新製品が相次いで出展された。▼ホリゾンは小ロット、バリエーションに適応した「デジタル印刷向け製本システムSmartBookingSolution」の実演とサンプル配布のほか、製本機、紙折り機の新製品を紹介。▼デュプロは鞍掛け中綴じ製本機はじめ新製品のカタークリーサーやインクジェットプレスなどを出展。▼バーヴェシステムジャパン、ピー・ピー・エスはDM向けの封入封緘・宛名印刷装置を実演。▼ウチダテクノはデジタル印刷向け後加工カタークリーサーを出展しカットから筋入れ・ミシンを紹介した。



「SmartBookingSolution」の実演

⑤IT・総合印刷業務管理ソリューション本格化

見積、受注、製造、出荷、用紙発注などをリアルタイムに処理する総合業務管理ソリューションが主要ベンダーから出展された。▼トスバックシステムズは総合戦略管理システム「ひだりうちわ」シリーズの新製品「PriNOS（プリノス）」を実演。大貼り面付連動・JDF対応、WEB受注管理システム、用紙発注EDIなどの新機能を紹介。▼JSPIRITSは印刷業基幹業務管理システムPrintSapiensの最新バー

ジョンを出展し、見積管理から原価管理までのトータルサポートと、クラウド・ホスティングサービスを紹介。▼両毛システムズ、デンセイ、ビジネスイーブレン、ムサシ、コスモの各社から業務管理システムの最新版が紹介された。

おわりに

以上、印刷業からメディアサービスプロバイター業への転換を支援するpage2013の開催概要や

出展状況をかけ足でレポートした。page閉幕後、2月11日～15日までスイスのルツェルンで開かれた世界最大のデジタル印刷機材展「Hunkeler innovationdays2013」を視察した。デジタル印刷機に後加工機とITを連携させて、企業、広告主、読者、消費者、生活者に最適な印刷物を届けることを目的とした「コミュニケーションの円滑化を支援するビジネスモデル」が多数実演されデジタル印刷の方向性を示した。

新局長に就任して

地域と共に

沖縄タイムス社 システム局長

伊野波 盛彦

1月1日付でシステム局長に就任いたしました。システム局は昨年末から今年にかけて新新聞製作システムの稼働、新社屋のネットワーク構築、引越し作業等と、いくつものハードルを越えなければなりません。しかしシステム局員及び関係部局、各ベンダーの周到なる準備のおかげで無事完了することができました。特に新聞製作システムではこれまでとはまったく違う新しいオペレーションになるので組版作業に慣れるのに苦労しましたが、編集局整理部員の頑張りで年末の衆議院選挙及び新年号製作を乗り切ってくれました。大変でしたが新年会での先輩方々の「元の場所によく帰ってきてくれた」と嬉しそうな顔を見るとほっとしています。



* * *

今年、本紙は創刊65周年を迎えます。沖縄タイムスの創刊号が発行されたのは65年前1948年の7月1日。食うや食わずの生活の中から経済復興をめぐる住民の要求が活発になっ

たそのときに、本紙は産声を上げました。米軍占領下のゼロからの出発。創刊65周年にあたり先輩たちの志をあらためてかみしめたいと思います。

そのなかでも新社屋のタイムスホールの復活は沖縄の文化芸能など県紙の重要な役割である地域づくりの応援団になることだと思います。

「めくるワクワク、とどける未来」をスローガンに、地域に密着したイベントを計画しています。

* * *

ネット時代の到来によって若者の新聞離れが急速に進んでいます。

SNSなどいろいろなデバイスによる個々の発信で情報の多様化を広げ。それが違う方向に導くことになるかもしれない。

そのような時代だからこそあらためて、新聞が果たすべき役割は何なのか。

基地問題など沖縄が抱える問題は、沖縄からきちんと発信しなければ問題の所在さえ忘れられてしまいかねない危うさがある。県外への絶え間ない発信は今後ますます重要になると思います。

* * *

新米局長ですが、各システムの安定稼働と新しいデジタルビジネスモデルの提案をやっていきたく思います。ご指導ご鞭撻よろしくお願いします。

楽事万歳

努力して、一步前進

長崎新聞社 取締役印刷担当兼
長崎新聞印刷センター 代表取締役社長

村田 博行

ほとんど、趣味も無く入社以来40年過ごしてきた。とは言っても、約5年前の57歳からゴルフを始めた。局長から役員に就任して、経営的な視点での省人化、経費削減から印刷局の分社化など、厳しい現実が待ち受けていた。この時期から新たな自分との闘い、葛藤が始まった。



妻が見かねて、兄に頼んでゴルフを薦めてくれた。早速、ゴルフショップで一式を購入。近くのゴルフ練習場でレッスンプロに付いて練習を開始した。若いころは「ゴルフなんて何がおもしろい」と、批判的だったが、いざ、やってみるとなかなか面白い、思うようにならないところがまた腹立たしく。練習に明けくれた。約半年間練習を積んで、コースデビューとなり、右に左に木々の中、ラフ、バンカーとクタクタになりながら、何とかフィニッシュできた。コースの絶景や鮮やかなグリーンなど全く覚えてなく、一日が終わった。

あれから5年が経ち、何とか周りに迷惑をかけない程度まで上達できたと思う、今日この頃だ。メンタルなスポーツと覚えることが多々ある。同時に、性格が直に出ることで大変勉強になる。プレー中にすごく勉強になることがある。ドライバーでナイスショットとなり、ミドルの二打目を「2オン出来るのではないかとどこかで無謀なささやきが聞こえ、ウッドで挑戦するも結果は、OBで散々な目にあう。自分のペースで日頃の練習通りに冷静にできるかで、プレーに影響が出てく

る。4人で休憩を入れて約5時間過ごすことでは、有意義な一日になる。お互いに楽しく過ごせるかである。相手かまわず、自己中心のプレーヤーもいれば、さりげなく気を使いながら「プレーの良いところをほめる」楽しいプレーヤーもいて様々な経験をさせて頂く。

* * *

さて、やはり仕事の話をしなないとどうしても済まなくなる。実は、いま抱えている最大の課題は、印刷センターを設立して3年目になる。現在、新会社になって、入社したのが10名(次長以下26名中)となり、技術教育と社会人教育が大きな課題である。大卒・高専卒・高卒と多彩であるが、高卒で社会勉強から始めるケースが多々ある。「おはようございます」帰るときには「失礼します」がまともに言えない子が、多く感じられる。

新人は、各班に配置して、教育係を1人選任して、約半年間マンツーマンで、教育する。挨拶から始まり、安全教育、作業手順からメンテナンスまで幅広く教え込んでいく。毎月定例のデスク会議で進み具合を報告させ、教育の進捗状況を確認しながら、徐々に作業内容を高度化していく。ついていけなければ徹底して議論し、全員で粘り強く教育する。大きな成果は、非常に心配した新人が、ある日を境に見違えるように積極的に前に出て、作業に取り組む姿勢が良くなったことだ。

今でも、印刷の伝統「全員のチームワークで全てを解決する」が脈々と息づいている。頼もしいかぎりだ。私は、日頃から言ってることで「頑張らなくてもいいが、努力を人一倍すること」と「厳しい中でも少し、相手の気持ちに立って物事を進める」ことで必ず、展望が開けると確信している。

厳しい新聞業界であるが、前を向いて、一步前進で、自らの力で展望を切り開く努力をしたいものです。新聞輸送や輪転機など設備投資の分野から新聞業界の動きを見ることも重要で、見えてくるものがあると思う。

「週末農業」

コダック(株)情報コミュニケーション営業本部
報道メディア営業部担当課長

矢崎 友則

新潟県佐渡市(佐渡ヶ島)、私の故郷です。目の前に海が広がり、振り返ると山に囲まれた田と畑という日本の原風景がいまだに残っています。

学生の頃は畑仕事は言うに及ばず、小舟で海に出てワカメの養殖の刈り取り、仕掛けた網の引き揚げなど、様々なことをやりました。

ワカメのシーズンは冬です。寒風吹きすさぶ中、父と小舟で養殖場まで行き、海水に手をいれて刈り取ります。刈り取ったワカメを岸で洗い、メカブと不要な部分を分けて、専用の竿に掛けて干します。冬の日本海の風が水を切るだけでなく、ワカメの味をおいしくするような気がしたものでした。

佐渡は米も野菜もうまいです。おそらく山から出たきれいな水が、よどむことなく田に畑に入るためではないか、と思っています。

* * *

そんな私も東京に出てきてからは、自然とは縁遠い生活となりました。特に学生生活を終え、働き出してからは佐渡に帰る回数も減り、畑仕事、海仕事をするともなくなっていました。

ある時、家の近所を子供達と歩いていると「体験農園」の募集看板を掲げた畑を見かけました。たくさんの方々が農作業にいそしんでいます。なんとも楽しそうに、畑を耕し、草を取り、野菜を育てている光景が目に入ってきたのです。

実はその頃、不安に思っていたことがありました。子供達が「植物が育つ」ということを理解していないように感じていたのです。種



を植えて水をやれば花が咲き、実がとれる。確かにそうなのですが、その過程では病気の予防、虫取り、草むしりなどなど、育つには手がかかります。それでも時には枯れてしまうこともあります。そういうことを理解していないように感じていたのです。田舎育ちの私からすれば、子供達が理解できないことを理解できず困っていたのです。

「体験農園」の募集看板を見たときに「これだ!」と思いました。すぐに申し込みの手続きをし、家族に「週末農業」を始めることを宣言しました。

それから、「週末農業」の生活がはじまりました。種をまくだけではなく、虫から守る囲いをつけ、肥料を工夫し、枯れたところを植えなおします。農作業を通じ、子供たちが身体で「育つ」ことを覚えていきます。最初は触れなかった青虫も、しばらくするとひょいとはつかんで始末するようになりました。

なにより、収穫した野菜のおいしさに家族一同感激していたことを覚えています。

畑の仲間との交流も楽しく、諸先輩方から様々な経験談を伺います。同世代と互いの考えを語り合い、お酒を交えながら盛り上がります。子供達も畑友達を作り、皆で遊んだりしていました。

出来の良い年、悪い年、トウモロコシがうまくできたと思ったら、人参で失敗したりと、思うようにはいかないところに面白さがあります。子供達もすっかり野菜好きになり、いっばしの農業人を気取るようになりました。その姿をみると、「植物が育つ」ことの理解という当初の目標は達成できたように思います。

* * *

農園生活ももう8年になり、今はすっかり私の趣味となってしまいました。週末は畑を見ないと落ち着きません。船舶免許もとり、佐渡に帰った時には網と養殖の手伝いもします。どうも私の中には先祖代々培われた山と海の血が流れているようです。

「電波・通信の可能性にチャレンジ」

東日本大震災以降、災害時の緊急連絡手段の確保の重要性が見直されていますが、当社は創業以来「電波・通信」を事業の柱にすえております。災害時の自営通信に下記の製品をご検討下さい。

○5GHz帯無線アクセスシステム Breeza Access

5GHz (4.9GHz)帯を使用した802.11aプロトコルの高出力高速無線LANです。

高出力(250mW)で長距離伝送可能。見通しで40kmの実績。見通し距離実績30Mbps/10km、10Mbps/35km。専用周波数のため、電波干渉輻輳の心配ありません。

○屋外用Wi-FiベースステーションWBSn (802.11n)

複数の伝送路を用いて通信速度450Mbps実現することや、電波の利用効率を大幅に高める効果があるビームフォーミングにより遠方まで伝送距離(1Km)を可能にするなど、高いパフォーマンスを発揮、屋外設置WBSより屋内端末との通信を実現します。

○LANdeVOICE

インターネット回線に接続するだけで音声を送るVoIP機器。IP電話をはじめ、電話機や交換機、放送設備と接続可能です。

田中電気(株)

お客様の声をつねに反映

日本ボールドウィン株式会社は、1968年の創立以来「印刷現場の声を聞く」「お客様に満足」を共通のモットーとするボールドウィン・グループの一員として展開してまいりました。印刷業界と社会の発展に貢献すべく、国際性を活かし、印刷機械周辺機器等専門メーカーとして技術開発力と品質を一層高め、お客様の生産性向上・省力化等に寄与する製品とサービスをご提供して参りました。

当社主要部門の一つである新聞印刷関連の製品としては、既に各社より高い評価を頂いている湿し水供給装置、4×1輪転機に対応した、小型ブランケット洗浄装置(SSW)また既存の製品カテゴリーに加え、環境への配慮

に対する要求の高まりから検討されている規制強化にも対応する商品もあります。新聞印刷工場から排出される湿し水排水を他域の排水基準に合わせ処理する排水処理装置や、印刷品質向上だけでなくコスト削減にもつながるQ I社製レジスタコントロール・カットオフコントロールなど。

さらには製品の販売だけでなく、よりきめ細やかなアフターケア、メンテナンスサービスのご提供を目指し、お客様に合わせた定期サービス保守契約等のご提案も行っていきたくと考えております。今後も貴重な「お客様の声」を製品の質向上と開発に反映させ、お客様に求められる商品とサービスを提供できるよう努めて参りますので、ご愛顧の程宜しくお願い申し上げます。



日本ボールドウィン(株)

プリンティング文化の発展にあわせて成長・・・

弊社は1923年(大正12年)より印刷インキメーカーとしてスタートし永きに渡る歴史を築いて来ました。その間、時代の変遷に歩調を合わせて技術を研鑽し印刷インキの製造、販売にとどまらず様々な機能を付与した記録材料全般に関する製品の開発、製造をすすめて来ました。

この間、印刷インキの開発で培った技術を活用しプラスチック用着色剤などの関連製品の製造、販売にも尽力し総合色彩化学企業として邁進してきました。

印刷インキ関連では、インクジェット用インクや機能性インキ・コート剤などの印刷材料、及びその周辺材料の提供、プラスチック用着色剤関連では、プラスチック成形材料の提供とこ

れらの技術と成型加工技術による成型加工品の提供を行い、最新の技術を駆使して高品質で環境に優しい製品を提供することにより幅広く社会への貢献を行っております。

各事業部門では・・・

インキ事業部門では、地球環境の保全に貢献する高品質・高機能・高付加価値のある印刷関連資材の研究・生産・販売活動に取り組んでいます。さらに、印刷業界の業態変革に伴い、デジタル印刷対応の新規事業の構築を推進しています。

化成品事業部門では、プラスチック分野に於いて高度化・多様化していくニーズに対応すべく、当社の分散技術・加工技術を生かした各種製品の提供に取り組んでいます。

加工品事業部門では、当社コア技術である分散技術を駆使したプラスチック材料を使用し樹脂成形品や一軸延伸の開発・製造に取り組んでいます。



東京インキ株式会社
TOKYO PRINTING INK MFG. CO., LTD.

システムリフォーム

システムのクラウド利用や共有化が検討される中、設備の更新費用の抑制は、ベンダーにとっても大きな命題となっています。

今後、スクラッチでシステムを開発する機会が少なくなると想定した場合、ユーザーとWin-Winの関係を維持する手法として何があるのか? そのひとつの答えとして提言しているのが「システムリフォーム」という考え方です。

できるだけ現状のシステムを長く使いたい。仮に更新する場合でも、ユーザーインターフェースなどの使い勝手は維持したいという声が多いのにもかかわらず、機器の製造、保

守期限の問題やミドルウェアのバージョンアップにより、希望がかなわないケース。その場合でも、方正では、既存のソースを新しい環境でコンパイルし、コンパイルエラーを改修し、併せて、変更要件も取り込むというリフォーム作業(マイグレーション)を多数行っています。特に既存システムの開発メーカーが、事業撤退している案件では、期待値も高く、保守サービスまでスムーズに引き継ぐことで信頼を得やすいのです。コスト抑制に寄与しつつ、案件数を増やせるため、SEが多様な経験を重ねることもできます。ベンダー間の連携もできるのではないかと思案しています。

方正株式会社

**JANPS7年ぶり
「技術開発賞」
新年合同名刺交換会
なごやかに**

31回目となる新年恒例の新聞製作人合同名刺交換会は、1月11日(金)内幸町の日本プレスセンター10階大ホールで開かれた。新聞社・印刷関係の50社から94人、懇話会会員社38社188人と新聞協会幹部と懇話会事務局らの10人、合わせて292人が出席した。昨年の296人をわずかに下回ったが、会場は新年らしい華やかな雰囲気に包まれるなか、なごやかに賀詞を述べ合った。

午後3時半、佐塚正樹協会編集制作部長の司会で始まり、所用で欠席の五阿弥技術委員長(読売)に代わり仲沢仁副委員長(日経)が挨拶した。直前の技術委員会で決まったJANPS2012の各賞授賞を披露。7年ぶりの技術開発賞が東京機械のデジタル印刷機に贈られるとし、奨励賞もクロスデザイン、東芝ソリューション、東洋インキ、清水製作、ストラパックの5社が受賞することになった。

芝則之懇話会会長(東京機械)は、開発賞受賞を「懇話会の励みになる」と会員社を代表して御礼を述べ、「次回JANPSを何年後に開くかが大きな問題で、新聞社側とも協議を重ねて近々方向付けをする」と方針を語った。「昨秋のJANPSに非会員社が13社参加したのは、新聞はまだ魅力あるマーケットである証拠であり、技術革新をしっかりとやっていけば、新聞界へのお手伝いができる」と結んだ。

紺野親技術副委員長(道新)が乾杯の音頭を取り、懇談の輪が広がった。藤間修一懇話会副会長が中締めをして、1時間半にわたる名刺交換会をお開きにした。



JANPS2012「技術開発賞」「奨励賞」の受賞社と対象は次の通り。

☆技術開発賞

・東京機械製作所:デジタル印刷機「ジェット

リーダー1500」

☆奨励賞

- ・クロスデザイン:クラウドサービス「LEPUS」
- ・東芝ソリューション:「販売管理ソリューション」
- ・東洋インキ:紙面検査装置「Toyoassistant-FX2」
- ・清水製作:ブランケット洗浄装置「SSBC-T10」
- ・ストラパック:「NCS-6X型(仮称)カウンタースタッカー」

CONPT 日誌

- 12月27日(木)仕事納め
- 1月7日(月)仕事始め
- 1月11日(金)臨時評議員会(出席9名)
第31回新聞製作人新年合同名刺交換会(於日本プレスセンター10階ホール、290余名出席)
- 1月17日(木)広報委員会(出席8名)
- 1月30日(水)JANPS2012打ち上げ(於東京会館、17名出席)
- 2月5日(火)クラブ委員会(出席5名)
- 2月7日(木)企画委員会(出席8名)
- 2月12日(火)広報委員会(出席7名)
- 2月14日(木)評議員会(出席7名)

会員消息

■社名変更

* パナソニックSSインフラシステム(株)は、3月1日付でパナソニックシステムネットワークス(株)に社名を変更しました。

■所在地変更

* 日本電気(株)(2月12日付)
(〒105-8540)

港区芝3丁目23-1 セレスティン芝三井ビル
電話番号は変更ありません。

* DICグラフィックス(株)(3月4日付)
(〒101-0063)

千代田区神田淡路町2丁目101番地
ワテラストワー7階
(TEL: 03-6733-5076)